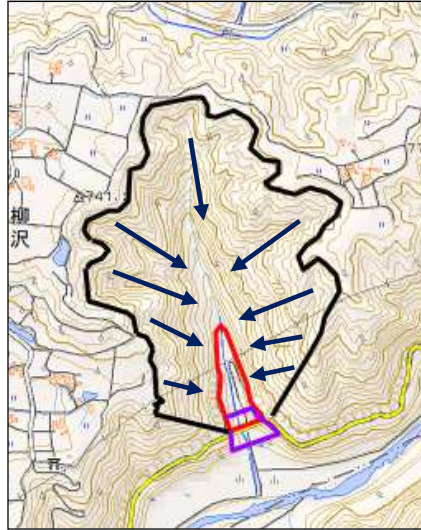


渡場を土砂災害から守りましょう！

★「未来永劫責任とる」とは確約していない？

半の沢橋を撤去し、トンネル残土を使い高盛土の道路を築造することを前村長が認めた際、「盛土の崩壊や有害物質の流出などのないようには未来永劫責任を持つ」ことになっていました。しかし1月30日の協議会で県は「確約はしていない」と言い出す始末。

「責任をとる」内容をうやむやにしたまま、谷を埋める計画だけが先行する。こんな危険なことが中川村で起ころうとしているのです。



★谷埋め盛土はいずれ崩壊する

半の沢は流域面積 29 万㎡ (図の黒線)、橋の高さで谷埋め盛土をした場合の平面積は 13000 ㎡ (赤線)。

半の沢は大きな流域を持っており、10 ミリの雨が降れば 2900 トンの水が末端の盛土に集中し、大半は地下浸透して盛土内に流入します。

大雨では地下水水位の上昇と浸透しきれなくなった大量の雨水が表面流出し、盛土崩壊の危険性が高まります。地震の際には、さらに盛土の液状化や滑りなどが発生し危険は増大します。全国で谷埋め盛土の崩壊によって大惨事になった事例はたくさんあるのです。



一級河川の真横で、しかもこれほど大きな谷を、高さ40mまで 60 万㎡の残土で盛土して沢を埋めてしまうなど、常識では考えられないことです。

★36 災害を忘れない～渡場を守ろう！

崩壊した土砂が河川に流出すると、堰止め湖ができてしまい、土石流が下流域に大災害を引き起こします。36 災害では松川町福与地区は生田地区の崩壊土砂が寺沢川を堰き止め、その土石流により壊滅状態となりました。

小渋川は寺沢川よりも流量が多く、もし谷埋め盛土が崩壊したら、渡場地区は土石流によって大惨事となってしまいます。

私たち中川村民は、子々孫々の代までこの地を引き継いでいく責任があります。

危険な谷埋め盛土は認められないのです。

